

## 広島ーシンガポール学生交流20年

広島シンガポール協会 運営委員  
(広島県国際部長)

橋本 康男



### 20年間で800人を超える学生・教員が 広島を訪問

私は、「シンガポール広島事務所」の初代所長として、1991年8月にシンガポールに赴任しました。この事務所は、広島県と東南アジアとの経済交流の促進を目的として、広島県内の商工会議所と県・市町村が共同で設立したものです。当時は円高の進行の中で、海外進出について真剣に考えなければいけないのではないかというムードがようやく高まりだした時期で、商工会議所と行政が共同でその支援をしようと、初めて事務所を設立したのです。(2003年に閉鎖されました。)

この事務所の初代所長として活動をする中で、広島側のグローバル感覚向上の必要性を痛感し、その一助にと、1992年にシンガポール・ポリテクニク(SP校)、1993年からはシンガポール国立大学(NUS)と学生交流を始めて、現在に至っています。



シンガポール政府外務大臣賞受賞

これまで、私たちのプログラムでシンガポールから広島を訪問した学生と教員は800名を超えており、2009年には、シンガポール政府が新設したシンガポール外務大臣表彰の栄えある第1号を、広島シンガポール協会会長がいただきました。

20年前に設立された経済交流事務所からなせ学生交流が始まったのか、そしてそれがどのようにして外務大臣表彰にまでつながっていったのか、ご紹介させていただきます。

### よそ者に優しい社会シンガポール

個人的な話で恐縮ですが、私は1976年に広島県庁に入った地方公務員です。1987年に、東京の伊藤忠商事(株)本社で、全国の公務員初の一年間の商社研修を経験させていただくまで、海外とは全く縁がなく、伊藤忠出向中の中国出張が初めての海外旅行、シンガポールへの駐在準備訪問が2度目の海外旅行であり、地方都市に住み働く者にとって、グローバル化は縁のない話でした。

シンガポールへの赴任が、生まれて3度目の海外旅行という状況でしたので、そこでの新事務所の立ち上げは、当然ながら手探りの連続でした。当初はアシスタントさんも雇えなかったため、ビザの手続きも自分で行い、郵便局に電話の手続きに行き、机や本箱を安く購入するためにチョーチャーカンの家具工場に行って値引き交渉をしました。こんな状況の中で一人でじたばたしていると、随分多くのシンガポールの方々に助けていただきました。よそ者に優しい社会というのが、シンガポールに対する私の初印象であり、これが原点になります。事務所の立ち上げ時期の半年余は、アン

モキオの工業団地にある広島の企業の工場の隅に間借りしており、昼食は工業団地内のホッケーセンターだったことも、地元の方々と感覚的に近づくのに役立ったように思います。

### 経済交流事務所が学生交流を始めた理由

こうして立ち上げたシンガポール広島事務所には、広島県内各地の商工会議所から、随分多くの訪問団が来られました。円高の進行で海外進出を考えないといけないと言われるが、知識も経験もないのでとりあえず東南アジア視察訪問団に参加してみようという方も多かったように思います。訪問団の参加者の中には、先入観、思い込みや決めつけ、単純化で、インドネシア人は「みんな」・・・だ、今からは「絶対」にタイが良い、・・・のことは「全部」知っている、というような表現をされる方もいらっしゃいました。

囲碁や将棋であれば、何級とか何段とか細かくランク付けをするのに、英語力については、「ペラペラかゼロか」といった二極化がされてしまうように、あまり知識や経験のない海外の話となると極端に単純化して、自分の限られた体験や理解の範囲内で判断しようとする方を見て、「これでは海外とのビジネスの土俵で対等な勝負ができないのではないか」と危機感を感じたことが、学生交流

のスタートにつながりました。

広島の方々の方がグローバルな感覚を身に付けて対等に議論できるようになるためには、「既存の社会常識」への先入観のない学生の時期から、海外の人々と交流し、しっかり議論をする経験をする機会を作ることが必要ではないかと思ったのです。

### 学生交流のスタート

実際に交流を進めていくためには、日本語を学んでいるシンガポールの学生をとりましたが、NUSの日本研究学科は、大企業の方々が見山のパイプを持っておられる印象で、立ち上げたばかりの一人事務所としてはアプローチの方法すら思いつかない状況でした。このため、その年に日本語教育を始めたSP校にコンタクトしました。

ちょうど、シンガポールが初めて海外での企業体験研修を始めようとしているところで、それへの協力を求められ、1992年に、SP校の4人の学生を1か月間、広島の方々での研修に受け入れました。この協力については、同校の行事において、シンガポール政府通産担当上級国務相から記念品をいただくなど高い評価をいただきました。その後、同様な企業体験研修のほかに、ホームステイを中心とした広島での日本理解研修にも20人



シンガポール国立大学生の企業体験研修

の学生が参加してくれました。1993年には、同校と広島工業大学専門学校との提携のお手伝いもしました。

このような実績を元に、NUSとコンタクトをすることができ、1993年11月に就航したシンガポールと広島の直行便の第一便には、NUSの学生20人と引率の先生1人が搭乗しました。これは、1～2泊ではなく1週間から10日ほどのホームステイにより、双方が少しでも深く交流できる機会をと始めたものです。この日本理解研修は、ホストファミリー探しの困難さから、最近では5～6日のホームステイとなっていますが、現在まで続いています。また、1998年からはNUSとも企業体験研修が始まり、現在では毎年10名弱の学生が3週間程度、広島の企業で研修をしています。

### 汗はかくけど金は出さない

このような学生交流のスタートに当たって意識したのは、「汗はかくけど金を出さない」というものでした。すなわち、旅費などはすべてシンガポールの学生が負担することを前提として始め、今に至るまでそれを守っています。これは、経済交流事務所が付随的に始めた事業であり、それに使えるお金がなかったためでもあります。「金の切れ目が縁の切れ目」にしたくなかったという思いもありました。

ただ、企業体験研修には、一人2万円を研修支援金として提供しているほか、20人程度の日本理解研修では、引率の先生の旅費を広島側が負担しています。また、ホストファミリーの家と集合場所との間の移動に要する交通費の違いを調整するための原資として、学生一人当たり千円を参加人数分提供しています。金額としては僅かですが、このようなアンフェアに対する目につきにくいところへの配慮が、プログラムを長続きさせるためには大切だと感じています。

### 広島シンガポール協会の設立

1994年3月に帰国した後も、この交流を何とか続けたいと思っていたところ、広島信用金庫から、

広島シンガポール協会(HSA)を立ち上げたいので協力してほしいとお話をいただきました。学生交流を協会の事業として位置付けていただけるならと申し上げたところ、学生交流は、街のフレンドリーバンクを標榜する広島信用金庫にとってふさわしい事業だとして快諾いただき、1995年12月に協会が立ち上がりました。同金庫には、その後本当に熱心にこの協会の運営に取り組んでいただき、現在では、法人会員約400社、個人会員約400人という、広島最大の二国間交流団体へと発展しています。

協会設立当時は、会員になっていただく企業にも海外と縁のある企業はさほど多くない状況でしたが、シンガポールという、規模は小さくても、明確な将来ビジョンと実行力で大きな成果を実現している国を知っていただくことによって、規模の大きさや歴史の長さではなく、変革力の大切さを学ぶことに大きな意味があるとして説明していました。

協会では毎年講演会を開催し、シンガポールの多様性の力を理解していただくように努めています。シンガポールの活力の源を熱く語っていただける方々に、講演をしていただいています。



広島シンガポール協会講演会

### 学生交流の継続と新プログラムの開発

企業体験研修とホームステイの2本柱でスタートした学生交流ですが、2008年から、広島での1年間の日本語勉学のための奨学制度を追加しました。これは、三原国際外語学院と協会との共同

事業であり、外語学院が授業料等を約半額免除するとともに、協会が月5万円の奨学金を提供するというものです。新プログラムの開始に当たり、継続することを前提として、どの程度の内容であれば毎年続けられるのかを話し合いました。これまでこのプログラムに参加した6人全員が、日本語能力試験1級(N1)に合格しています。今後も、少しずつ、新しいプログラムを考えていきたいと思っています。

### 三原市の中学生シンガポール交流16年

この、三原国際外語学院との提携は、私が個人的にお手伝いしている広島県三原市の中学生のシンガポール交流を、外語学院も支援していただけることがきっかけとなっています。広島シンガポール協会の立ち上げへの協力を依頼されたのと同じ頃に、三原市役所から、中学生のシンガポール交流への協力を依頼されました。三原市内に住む中学生に、シンガポールとの交流を体験させたいというものです。

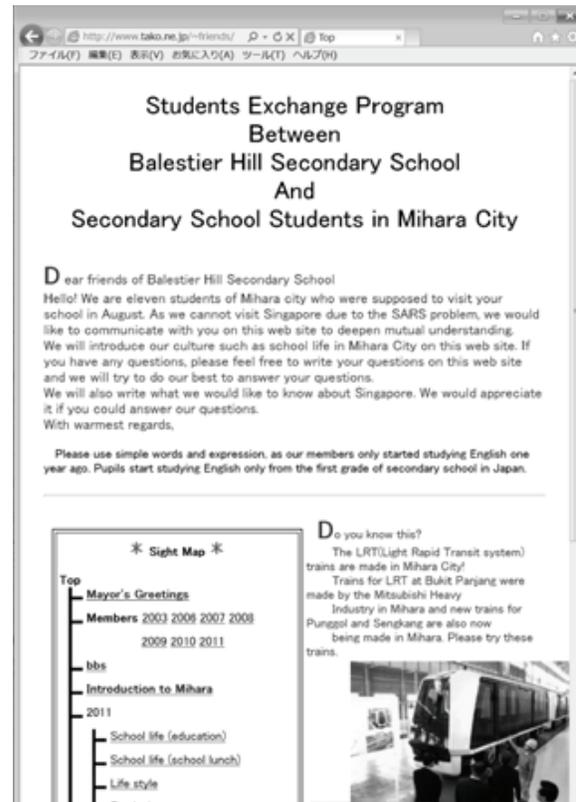
私は、税金を使って子どもに海外旅行をさせるだけでは意味がない、子どもたち自身がどれだけ真剣に考えて準備をするのか、交流を通じてどれだけ変化していくのかが重要だと申し上げ、訪問前に10回程度は事前準備を行うことを提案しました。三原市はこの提案を理解していただき、交流がスタートしました。最初の訪問グループは、訪問前の3か月間、12回の事前研修を行い、三原市の紹介や交流事業の準備をしました。

このような準備の成果は、訪問先のシンガポールの中学校から高く評価していただき、翌年からはホームステイも引き受けるとの提案がありました。6年目からは、シンガポールの中学生も三原市を訪問するようになり、現在に至っています。これまでの16年間で、三原市からシンガポールへ209人が、シンガポールから三原市へ138人が訪問しています。シンガポールでの交流の相手先をバレストニアヒル中学校に絞っていることも、長続きの理由だと感じています。

この間、SARSや新型インフルエンザにより訪問

が中断することもありましたが、信頼の蓄積を元に、インターネットテレビ電話やウェブサイト等も活用して交流を続けてきました。長年継続することにより、プログラムの評判が上がり、優秀な中学生が応募してくれるようになっていきます。

余談ですが、シンガポールで走っているLRT (Light Rail Transit) は、三原市にある三菱重工で製造されたものです。



三原市中学生シンガポール交流ウェブサイト  
(<http://www.tako.ne.jp/~friends/>)

### ナザン大統領との昼食会とシンガポール政府外務大臣表彰

2009年、シンガポールのナザン大統領が国賓として広島を訪問され、広島シンガポール協会の役員4人のために昼食会を開催していただきました。この昼食会には、シンガポールから外務大臣や教育大臣のほか駐日大使、国会議員なども出席されました。

その席で、大統領から、シンガポール政府が新たに作る外務大臣表彰の第一号を、広島シンガポール協会会長に与えることにしたと言われて、

さすがシンガポールと感心してしまいました。世界の多くの国々との交流が深いシンガポールが、外務大臣表彰の第1号を、日本の、それも広島の一民間団体の会長に与えるというもさることながら、それを大統領がご自身で伝えられるということに対してです。その場に居合わせて、権威や肩書、規模や歴史の長さなどではなく、実質で判断し大胆に行動していくシンガポールの凄さというようなものを感じました。



ナザン大統領広島訪問時の昼食会にて。右側が筆者。

これには、歴代シンガポール駐日大使の応援が大きかったことは、いうまでもありません。学生交流は、シンガポールの学生のためのものでもありますが、広島の若者のためのものでもあり、広島が変わっていくことをめざしているのだ、という私たちの思いをご理解いただき、応援をいただいています。

### 地方都市のグローバル化

ご存知のように、広島は、人類初の原子爆弾によって破壊された場所です。それと同時に、その廃墟から復興した場所でもあります。「核兵器廃絶への信念」の提供と同時に、「復興への確信と未来への希望」を提供できる場所でありたいと考えています。

とはいえ、広島が、開かれた場所になっているかという、まだまだです。広島県人づくりビジョンでは、「国内外から人材が集まる魅力ある元気な広島県」をめざすこととしていますし、昨年4月には、県内の大学、経済団体、行政など40団体で

「広島県留学生生活躍支援センター」を設立し、優秀な留学生の受入れ、生活支援、就職支援に取り組んでいます。県内の全市町に、外国人相談窓口と日本語学習支援窓口を決めていただくなど、多文化共生の社会づくりもめざしていますが、シンガポールの「多様性の力」には程遠いものがあります。

私は、シンガポール広島事務所長として、そして、広島シンガポール協会運営委員としてこの学生交流に取り組んできており、ここ4年間は、広島県の国際課長そして国際部長として、開かれた広島づくりに取り組んでいます。

地域が内向き体質になることに強い危機感を持っており、シンガポールから感じる、生き残りのためのなりふり構わない、常識や固定観念にこだわらない挑戦心のいくらかでも、広島が取り込んでいければと強く願っています。



復興した現在の広島

(広島シンガポール協会ウェブサイト)

<http://www.shinkin.co.jp/hiroshin/local/koukenkokusai.htm>

#### 執筆者氏名

橋本 康男 (はしもと やすお)

#### 経 歴

1954尾道市生れ。1976年、広島県庁入庁。伊藤忠商事(株)へ出向、シンガポール広島事務所初代所長、(財)ひろしま国際センター総務課長を経験後、広島大学に転職し地域連携センター教授など。2005年に広島県庁に復職し、政策企画課長、国際課長を経て2011年より国際部長。国立精神保健研究所客員研究員、早稲田大学社会連携研究所招聘研究員など。